



とらいあんぐる



2020 年 1 ・ 2 月

一音会ミュージックスクール発行

「あなたが世界を鳴らすのよ」

タイトルは「蜜蜂と遠雷」というお話の中の、あるセリフです。

「世界は音にあふれ、それらの音は時に音楽と化して、人の心を動かす」、そのことを娘に気づかせた母親のセリフです。

この小説はとても話題になり、昨年、映画化もされました。

一言でいえば、ピアノコンクールに挑む若者たちの群像劇です。

映画の中で、天才少年（風間塵）役

の演奏を、一音会の卒業生である藤田真央さんがつとめました。

そのこともあり、私は年末に娘のキョウコをさそって、観に行きました。

もし、このストーリーをご存じない方で、まだ知りたくない方は、どうかこのエッセイはお読みにならないでください。一部、ストーリーの内容に触れてしまっています。

私は不勉強にも、小説は読んでおらず、ストーリーについて、予備知識がほとんどないままに、映画を観ました。

「ピアノコンクールをめぐって、若者

たちが努力するおはなし」くらいの認識でした。

最近、大学の先生にすすめられて受けたコンクールで思うような結果を出せなかったキョウコに、「みんなそれぞれ、いろいろあるさ」「ま、がんばろ」くらいのメッセージが伝われば・・・くらいに思っていました。

ストーリーの主人公であるアヤは、20歳の女の子です。くしくも、キョウコもちょうど20歳です。音大生、20歳、コンクールに挑戦中と、共通項が多く、本当に良いタイミングで、この映画に出会ったと、うれしくなりました。



アヤは、幼少期、ピアノの師でもあるお母さんと、幸せな音楽人生をおくりします。ピアノをおもちゃ箱のように扱い、音楽を介して、楽しい時間を過ごすのです。

スクリーンの中に幼少期のアヤがうつされます。ピアノに向かうおかつぱ頭の少女のうしろ姿と、よりそうお母さんの丸い背中。

窓からはキラキラとした光が降り注ぎます。光を受けて、少女の髪が光っています。

二人は、ピアノの音に耳をすませ、語り、ほほえみ、見つめあいます。

ああ、これは！

息が止まります。

それは、私が以前、よく見ていた光景でした。

8年前まで、毎日、毎日、私が見ていた光景そのものです。

なぜ、ここにあの光景が！

おかつぱ頭の少女は、幼い日のキョウコです。よりそう背中、そう・・・私の母です。

もう、そうとしか見えません。

母は、そうして、毎日、毎日、何時間も、キョウコのピアノの練習につきあってくれていたのです。

病気のせいで身動きができない母にとっては、1時間、座り続けていることも、たいへんなことでした。もともと身体は常に痛みがある状態でしたが、自分では姿勢を変えることができず、座り続けていると身体の重みで圧迫され、いつも痛みは耐えがたいものになっていました。

でも、キョウコのピアノの練習の時だけは、3時間も4時間も、よりそってくれていたのです。

そんな母は、いつも笑顔でした。

すさまじい痛みがちがいがなかったのに。

そのことを忘れた日はありません。

でも、その光景がおぼろげになっていたことは否めません。

それもそのはず、もうすぐ母の命日である1月26日が来ます。

この1月26日で、まる8年になり

ます。

長い長い8年でした。

突然いなくなった母の穴を埋められず、ジタバタともがいたこともあれば、途方に暮れたこともあれば、すべてを投げ出したくなったこともありました。

いろいろなことがありました。ありすぎました。

私の心が回想の旅に出てしまっている間に、スクリーンの中では、ストーリーが進んでいました。

順風満帆だった主人公アヤの少女時代の最後、13歳の時に、大きな悲劇が彼女をおそいます。

アヤのお母さんが急死してしまうのです。

私は少し混乱していました。私の回想が、スクリーンにうつされているからです。

これは、誰のお話？

映画なの？

私の回想なの？

ストーリーは進みます。そう、映画でした。

お母さんが亡くなって以来、アヤは人前でピアノを弾くことができなくなってしまいます。7年という歳月が経ち、20歳になった彼女は、これを最後のチャンスと決めてコンクールに挑むのです。

この物語の核は、アヤの再生のストーリーです。

そして、「ああ、これはキョウコのストーリーでもあったのだ」と、私はようやく理解します。

母が亡くなって8年間、私は自分のことでせいっぱいで、キョウコの目線に立って見る事ができていませんでした。映画を観たその日まで一度も、です。

母を亡くして1～2年間のことは、自分のことすら、よくおぼえていません。キョウコがどうしていたか、まったく思い出せません。

映画館の椅子に沈みながら、私は意識をこらしていました。今、思い出さないと、永遠に思い出せないのではないか、と思いました。

思い出しはじめると、次から次へと記憶がふきだします。それは、8年間、一度も思い出さなかったことばかりでした。

母は、入院の直前まで毎日、キョウコのピアノの練習につきそっていました。

1月8日の「ピアノ・トライ」のコメンテーターも、例年通り、つとめていたくらいですから、亡くなった1月も、平常運転だったのです。

風邪をこじらせて入院してから、母が私に頼むことのほとんどは、思えばキョウコの練習メニューでした。



「今やっているツェルニーは、もうマルでいいわ」

「次の曲は、きっとすぐ弾けるわ。でもその次の曲は、てこずるわ。だから、次の曲とその次の曲は、同時に譜読みさせて」

「ハノンは、左手の4の指の形に気をつけて」

「ソナタは、調子に乗ると走りすぎる。最初にメトロノーム練習をかならずやらせて」

指示は次から次へと出されました。

あれ？ そんなに真面目にやっていたっけ？

なぜ、そんなに・・・

ああ、そうだ・・・

あの時、受験生だったのだ・・・

8年前、12歳だったキョウコは、音大附属中学の受験を控えていたのです。そんな大事なことも、私は忘れていました。

だんだん思い出します。

当時、私は何よりもまず「母をはやく退院させて、キョウコの受験準備に

戻らなければ」と焦っていたのです。

母は、私よりずっと焦っていました。

スクリーンの中では、またストーリーが進んでいます。お母さんを亡くしたばかりの13歳のアヤが、あおぎめた顔で、ピアノの椅子に座っています。

大きな舞台の上です。

アヤの姿はとても小さく、消え入りそうに見えます。

背後には、威圧的なオーケストラがそびえたっています。コンツェルトです。

しかし、彼女はもうピアノを弾くことができなくなっていました。

彼女はからっぽでした。

うつろな表情で、その目は何も見ていません。椅子に座っているのがやっと、という状態でした。

オーケストラの音だけが響きます。

オーケストラの重厚な響きの中、また私は、回想の海に放り出されます。

母が亡くなり、私は母のピアノを見ることができなくなりました。

ピアノは母の人生の象徴でした。

母のピアノのそばに母がいないことが、たまらなくつらく、母のピアノを見ることも、ピアノのある部屋に行くことも、しばらくの間、できなくなっていました。

スクリーンの中の少女が、鍵盤に触れることができない気持ちが、痛いほど分かり、涙があふれます。

かけよって、スクリーンの中の少女を抱きしめてあげたい衝動にかられました。

あれ？

キョウコは？

キョウコは、あの時、どうしていたのだろう？

おろかな私は、思い出せません。

抱きしめてあげたことも、多分ありません。

私以上に母とピアノのそばで長い時間を過ごしていたキョウコの痛みは、私などとはくらべようもないものであったはずです。

どうして、そのことに思っていたらなかったのだろう。

私は計算します。

母が亡くなったのは1月26日の夜でした。お通夜と葬儀をはさんで、キョウコの受験は2月1日でした。

5日！

たった5日しかなかったのか！

受験の日の朝、母がいつも着ていた黒いコートをキョウコが着ていたことだけは、なぜか鮮明に覚えています。

キョウコは、母の死の翌日から、ピアノに向き合っていたのだと思います。

あの日を境に「もうピアノは弾かない」といい出しても不思議ではなかったのに。そのことに、今、気づきます。

毎日、あたりまえのように長い時間、よりそっていた母。

やけに細かい練習の指示。

一切が、突然、消えたあの日から、もうすぐ8年です。

この8年間、よく耐えてくれたと思います。

なぜ、そんなことができたのか。

どんな思いで、ピアノと向き合ったのか。

少しだけ気づくことができた今の私は、想像することはできます。

でも、想像をここで書くことはやめておきます。

分かった気になっているだけで、いろいろ間違っているに決まっています。

母とキョウコの絆については、私なんて、結局、何も分かっていないのだと思います。

映画の中で、私がもっとも心に残ったシーンは、第二次予選です。

コンクールの中で、いろいろな人との出会いがあり、アヤは覚醒しつつありました。

舞台上でピアノを弾くアヤの姿が、ピカピカに磨かれたグランドピアノの屋根にうつつっています。

そして、アヤのとなりには、アヤのお母さんがうつつているのです。少女時代、いつもよりそっていたお母さんの姿そのままです。

ああ、お母さんがそばにいる。

もうアヤは大丈夫だ。

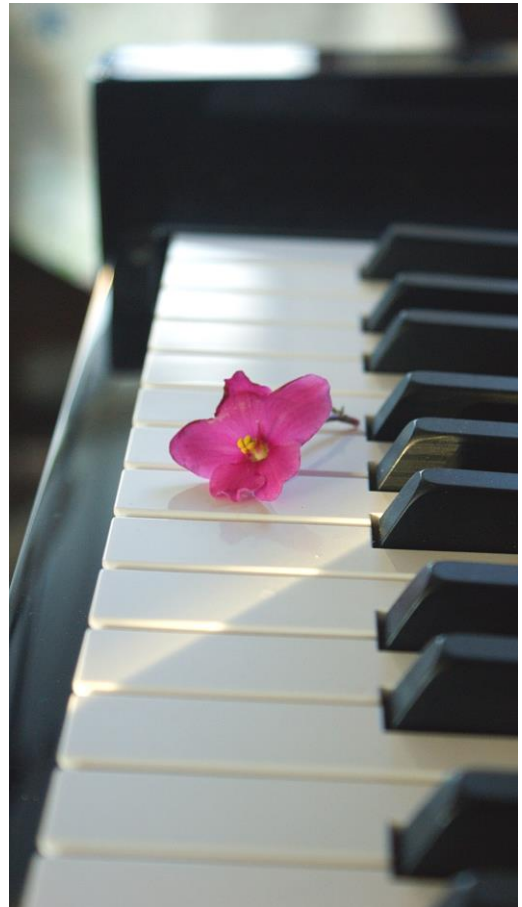
私は、ほっとします。

私の母も、私が気がつかなかっただけで、何度もピアノの屋根に姿がうつつていたのかもしれませんが。

「視線を移せば、そこに姿があったかもしれない」

そう思うことは、今、私の心を楽にします。

これまでも、今も、ずっとずっと、ピアノのそばにいてくれたような気がします。
(江口 彩子)



◆今年もよろしく願いいたします

2020年がスタートしました。

令和になって、はじめての新年です。そして今年はオリンピックイヤーです。

今年も、生徒さんやご家族の皆さまにとって、素晴らしい1年になりますように、力不足ながら、スタッフ一同、全力でご指導させていただきます。

生徒さんにご家族の皆さまのご協力のもと、「ピアノ・トライ」がはじまろうとしています。新年そうそうの、本来ならまだエンジンがかかりにくい時期にもかかわらず、一音会の生徒さんは、例年、立派な演奏をしてくださっています。今年も楽しみです。

2月になればすぐ、「フォルテの会」です。そして3月には、客員教授のプリドノフ先生ご夫妻が来日され、「ジュニコン・オーディション」もおこなわれます。

今年も充実した1年であってほしいと思います。発表の機会も積極的に活用して、力を伸ばしてください。

いつも、ご家族の皆さまには、多大なご協力をいただいています。教室のイベントが滞りなくおこなわれるたびに、感謝の気持ちを強くしています。

どうか今年もよろしく願いいたします。



◆「ピアノ・トライ」がはじまります

今年最初のイベントである「ピアノ・トライ」が、1月25日（土）を皮切りに、スタートします。

今年もたくさんの方にお申し込みをいただきました。あまりにも早く、満員となつてしまった日は、枠を急遽、追加しました。現状、希望通りでない方や、お申し込み後にご予定が変わってしまわれた方は、一度、本部までお問い合わせください。よりご都合にあった形でご案内できるかもしれません。〔03-5966-7711：担当・矢島、伊藤〕

また、この時期は、風邪をひきやすい季節でもあり、お風邪をひいてしまう生徒さんが出てくるのが予想されます。当日、体調が悪い場合には、後の日程に振り替えることができますので、どうぞ無理をなさらず、ご相談ください。

今年度の「ピアノ・トライ」は、下記のとおりです。お時間につきましては、お申し込みくださった方に、個別にご案内しています。

- | | | |
|---|----------------|---------------|
| ① | 1月25日（土 2・4） | （山本先生予定） |
| ② | 1月26日（日②） | （夏目先生予定） |
| ③ | 2月 2日（日）レッスンなし | （夏目先生・能勢先生予定） |
| ④ | 2月11日（月・祝） | （能勢先生予定） |
| ⑤ | 2月15日（土 1・3） | （山本先生予定） |
| ⑥ | 2月16日（日①） | （夏目先生予定） |

「ピアノ・トライ」ですてきな演奏をしてくださった生徒さんには、「ル・コンセール」にもご出演いただきます。「ル・コンセール」は、「ひびきホール」でおこないます。参加費、入場料、すべて無料です。ご出演の生徒さんやご家族以外の方でも、ご入場いただけます。ぜひお友だちにもお声をおかけください。

まだピアノのレッスンを受けていच्छゃらない小さな生徒さんもお入場いただけます。

講師演奏も予定しています。星野梨沙先生は、昨年9月よりレッスンを受け持っています。以前にも一音会に勤めていた先生ですので、復帰という形になります。井上実優先生は、4月より着任する先生です。優れた演奏家でもある二人の演奏も、ぜひ楽しみになさっててください。たくさんの方に足をお運びいただけますよう、願っています。

「ル・コンセール」での講師演奏曲目は、下記を予定しています。

1回目：2月 9日（日） 講師演奏 星野 梨沙先生

ショパン：アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ

2回目：2月23日（日） 講師演奏 井上 実優先生

ショパン：スケルツォ 第2番

◆「フォルテの会」を開きます

2月2日（日）に、「フォルテの会」を開きます。

「フォルテの会」は、ヴァイオリン、作曲、声楽などの、ピアノ以外の科目と、「うたくらぶ」（合唱）の生徒さんたちの発表会です。あまり知られていませんが、「うたくらぶ」には、おとなの方だけのクラスもございます。

場所は「ひびきホール」、12：30開場、13：00開演です。入場は無料ですので、お気軽に足をお運びください。

ピアノ以外の科目に興味をお持ちの生徒さんやご家族の方には、ぜひお越しいただきたいと思っています。これらの科目は、おとなの方（ご家族の方）も、受講できます。

当日の講師演奏は、菊池先生と森田先生の二重唱を予定しています。

曲目は、カーペンターズの「Sing」、そして、もう一曲は、当日のお楽しみです。



ひびきホール

西武池袋線東長崎駅
南口より 徒歩7分
タローズビル3F

★ビルの1階はスーパー
「まいばすけっと」です



◆新年度のレッスン希望表をご提出ください

現在、「今年のあゆみ」とともに、「新年度資料冊子」、「一音会ガイドブック」「2020年度変更希望表」、「ピアノキャンペーンのお知らせ」「リトミックのすすめ」「月謝表」を、お配りしています（お月謝は今年度と変わりません）。

すでに受けているレッスンのことはお分かりになっても、まだ受けたことのないレッスンについては、お分かりにならないことも多くあると思います。「一音会ガイドブック」には、この時期、皆さまからお受けすることの多いご質問を載せています。リトミックのこと、ソルフェージュのこと、アドバンスコースのこと・・・どうぞ、お時間の許す時にご覧になってみてください。

「ガイドブック」でカバーできていない内容もあると思います。そうした内容につきましては、直接、お問い合わせください。生徒さんお一人お一人のご事情をふまえて、ご相談に乗らせていただきたいと思います。

「変更希望表」は、来年度の、レッスン科目、曜日、時間のご希望をおうかがいするものです。たいへんお手数ですが、全員の方にご提出いただきます。変更をご希望ではない場合にも、「変更なし」としてご提出ください。書き方が分からない場合は、遠慮なくおたずねください。

新年度からのスケジュールが、はっきりとは分からない場合には、仮の希望をいったんお出しください。スケジュールがはっきりし次第、後日、改めてお出しただければ大丈夫です。

なお、曜日や時間を変更する場合には、ほとんどの場合、担当が変わることをご理解ください。現在、その日時に受けていらっしゃる生徒さんが、最優先となるためです。もちろん、ご希望の日時の付近で、現担当の手をあげるができそうな場合には、できるかぎり担当を変えずにお組みするよう、努力いたします。

また、担当が変わる場合にも、個々の生徒さんに、一番適したスタッフがあたるよう、考慮いたしますので、ご安心ください。

グループレッスンは、年度の変わり目に、編成や担当が変わることがございます。

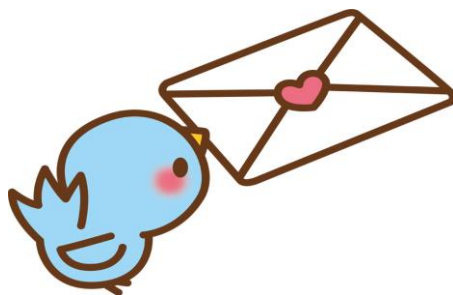
付記していただきましたご希望は、担当の先生の目にふれることなく、本部で処理します。ご遠慮なく、率直なご希望をお書きください。

新年度のスケジュールを確定するまでには、ご希望をおうかがいするために、こちらからご連絡をさせていただくことがございます。

お忙しい方が増え、ご家族の方と、お電話ではなかなか連絡がとれないことが増えています。日中、お電話に出ることができない、そして折り返すことが難しい、というご事情もよく分かります。そのような場合、メールでおうかがいやご相談をさせていただけますと助かります。変更希望用紙には、ぜひメールアドレスもご記入いただきたいと思えます。ご協力をよろしくお願いいたします。

希望表は、2月16日（日）までに、添付の封筒に入れて、ショパンはうす受付にご提出ください。本部あてに郵便でお送りいただくこともできます。

本部住所：〒171-0051 豊島区长崎3-19-1



◆年間スケジュールをご確認ください

新年度の資料の中に、2020年度の年間スケジュールがあります。仮ではありますが、大きな行事について、ここから変更が生じることはありません。

どの行事も、おおむね例年通りなのですが、来年度、大きく違うのは、発表会の時期です。一音会は、これまで8月の頭に発表会をおこなってきました（実はずっと以前には、8月下旬だった時代もあります）。

すでにお知らせしたことがありましたが、2020年の7～8月は、東京オリンピックに重なります。めったにないことであるだけに、どんな影響があるか、正直、読みきれません。少なくとも交通規制やオリンピックの観客の影響はあるでしょう。生徒さんの安全を考え、時期を8月下旬に動かすことにいたしました。（来年度だけです。再来年はまた8月の頭に戻ります。）

夏休み明けにすぐ発表会をおこなうわけにもいきませんので、コンパクトな夏休みを頂戴し、少しレッスンをおこなった後、発表会をおこなうことにいたします。

教室にとっても、皆さまにとっても、不都合があるかもしれませんが、どうかご理解ください。ご旅行の予定等をお決めになる際は、どうかご注意ください。



◆客員教授プリドノフ先生ご夫妻が来日します

3月に客員教授のユージン・プリドノフ先生、エリザベス・プリドノフ先生のご夫妻が来日されます。プライベートレッスン、コンサート、オーディションを予定しています。

日程は、以下のとおりです。コンサートの場所は、「ひびきホール」です。コンサートの日は、ぜひご予約をあけておいてください。

レッスン : 3月14日(土)・15日(日)・16日(月)
コンサート : 3月20日(金・祝)
オーディション : 3月22日(日) 15:00~予定

今回、先生方のご厚意もあり、すべてのスケジュールを土日と祝日に重ねる形にさせていただくことができました。お一人でも多くの生徒さんに、この機会を活用していただきたい気持ちからです。

客員教授の先生のレッスンは、大きな生徒さんや上級の生徒さんだけのものではありません。五線読譜が完了していれば、どなたでもお受けいただけます。過去、未就学の生徒さんで、レッスンを受けてくださった方も、多くいらっしゃいます。

レッスン用に大きな曲をご用意いただく必要もありません。普段のレッスンで進めている曲で大丈夫です。

レッスンは英語です。通訳の要、不要も、あわせてお申し込みください。ご質問、ご相談は、本部でもお受けできます [本部電話 : 03-5966-7711・担当 : 谷口]。

30分レッスン……レッスン料 (12500円) +通訳 (2500円) → 15,000円

45分レッスン……レッスン料 (18750円) +通訳 (3750円) → 22,500円

60分レッスン……レッスン料 (25000円) +通訳 (5000円) → 30,000円

◆「ジュニコン・オーディション」にご参加ください

「第14回ジュニアコンサート・オーディション」を開催します。生徒さんの、音楽性、実力、将来性、すべてを総合的に評価する審査となります。

以下が、エントリーの要綱です。

- ① 「ジュニコン・オーディション」は、「ひびきホール」でおこない、公開とします。たくさんのお客さんにオーディションをきいて、学んでもらいたいと願っています。
- ② 曲目は自由ですが、演奏時間は6分～12分程度とします。組曲や変奏曲の抜粋、ソナタの楽章の抜粋、短い曲を何曲か組み合わせることはかまいません。6分～12分は目安です。多少オーバーしてもかまいません。
- ③ エントリー資格者は、2020年4月時点で、小学4年生～高校3年生の、一音会に在籍する生徒さんです。
- ④ エントリーするための費用は15000円です。これは全額、審査員の先生ご夫妻や通訳者へのお礼にあてられます。もし、選ばれて「ジュニア・コンサート」に出演することになったら、コンサート出演費用5000円が必要になります。
- ⑤ 「ジュニア・コンサート」は、4月27日（月）夕方、「ゆめりあホール」（西武池袋線・大泉学園駅前）でおこないます。
- ⑥ 強制ではありませんが、オーディションの前に、プリドノフ先生ご夫妻のどちらかのレッスンを受けて、的確なアドバイスをいただくとよいと思います。ただし、合否は当日の演奏のみで決まりますので、「先生ご夫妻のレッスンを受けなければ合格しない」ということはありません。



◆一音会の生徒さんのご活躍を応援します

一音会卒業生の秋山紗穂さんが、第17回東京音楽コンクールのピアノ部門で、第一位になりました。同時に聴衆賞も受賞されています。2020年1月13日には、東京文化会館大ホールでおこなわれた優勝者コンサートで「ベートーベンピアノ協奏曲第4番」を東京フィルハーモニー交響楽団と共演されました。

この時期、各コンクールの最終審査が終わり、一音会の生徒さん、卒業生が上位入賞を果たされたといううれしいニュースを、たくさんきかせていただきました。

この紙面は、基本的には卒業生にエールをおくる場とさせていただいています。在会の生徒さんのたくさんのニュースは、きりがないので割愛させていただいていますが、在会の生徒さんもがんばっていらっしゃいます。たとえば在校生の稲葉千隼くんは先日、第29回日本クラシック音楽コンクールのピアノ部門小学校高学年の部で第一位になりました。日本クラシック音楽コンクールは、第一位をめったに出さないことで有名なコンクールです。

生徒さんの挑戦と活躍を、心から応援しています。



*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp

電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただいています。ご了承ください。